

◎保健福祉学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 教育理念・目的

保健福祉学部では、少子高齢化が急速に進み、保健や医療、福祉を取り巻く環境が大きく変化している時代に、次のような人材を育て社会のニーズに応えることを目的としています。

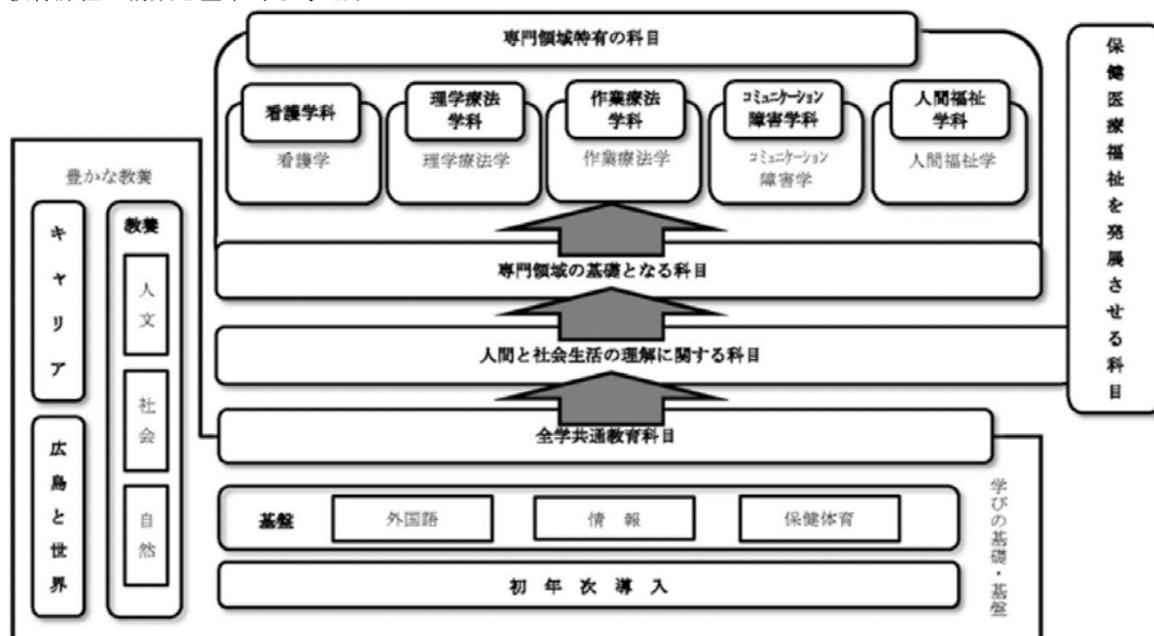
- 1 高度な専門知識を有し、保健・医療・福祉に貢献する人間性豊かな人材
- 2 保健・医療・福祉の総合的実践力を有し、チームアプローチを実践できる人材
- 3 保健・医療・福祉の領域において総合的に教育・研究する基礎的能力を備えた人材

そのため、5学科の連携教育により、専門的な知識や技術のみならず、チームアプローチや地域包括ケアシステムを支えることのできる総合的な実践能力を養う教育を行います。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育課程の構成方針

(1) 教育課程の構成と基本的な考え方



保健福祉学部の教育課程は、①全学共通教育科目、②人間と社会生活の理解に関する科目、③保健医療福祉を発展させる科目、④専門領域の基礎となる科目、⑤専門領域特有の科目、の5つの科目群で編成されています。

- (2) 保健医療福祉を発展させる科目では、保健・医療・福祉の仕組みやあり方を学び、5学科共同による演習を通して、社会の中での役割を認識し、保健・医療・福祉の連携を図ることができる資質を養います。
- (3) 実習科目では、実践現場における的確な判断力、主体性、創造性などを養います。保健福祉学部附属診療センターなどの活用により、段階的な実習を取り入れるとともに教育と実践との密接な連携を図ります。
- (4) 卒業研究は全学科必修科目としています。

2 専門教育課程の特色

- (1) 5学科共通の総合演習科目により、役割認識とチームアプローチの修得を目指します。
- (2) 臨床・実践教育に重点を置き、地域・社会での活動を可能とする科目を配置しています。
- (3) 小グループ教育を推進し、自主性と創造性を培います。
- (4) 科学的思考や国際感覚を育むための科目を設定しています。

3 学修成果の評価

学修成果の評価については、適正な学修時間を確保したうえで、コースカタログ・シラバスに配点割合を示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、学期中や学期末に行う筆記試験・レポート・実技試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度を観察したりするなどの方法を用い、総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

県立広島大学のアドミッション・ポリシーのもと、保健福祉学部には、保健・医療・福祉の対象となる人々に専門的立場からチームワークを通して寄与することができる人材の育成が求められています。

保健福祉学部は、高校で学ぶ基本的知識を身につけ、人に対して関心があり生命に対する倫理観を持った、入学後も生涯にわたり学び続けることができる意欲がある、柔軟性と協調性を有する学生を求めます。

◎作業療法学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 学修成果

【知識・技能】

- ・人－作業－環境の関係及びそれらの健康と障害との関係に関する知識を身につけている。
- ・作業療法を実践する社会的背景を理解できる。
- ・作業療法プロセスを理解し実践する技能を修得できる。
- ・エビデンスをベースとし実践する技能を修得できる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・柔軟で論理的に思考し、客観的に判断できる。
- ・クライアントの現状に応じた豊かで適切な言語的、非言語的理解や表現ができる。

【主体性・協働性】

- ・クライアントや関係者と効果的な対人関係を保つ態度を身につけている。
- ・理論と実践を照らし合わせて行動する態度を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 学修環境

- (1) 人－作業－環境の関係の重視
 - ア 障害別作業療法学の科目における事例提示では、常に人、作業、環境の情報を提供します。
 - イ 人－作業－環境の関係を説明する理論を教授します。
 - ウ 人が環境において機能するために必要な「作業」についての情報を提供します。
- (2) 作業療法実践の社会背景の重視
 - ア 社会背景が作業療法実践に与える影響を理解するために、関係者による講義や地域関連機関への訪問の機会を持ちます。
 - イ さらに学生が社会背景の理解を深めるために、ボランティアなど課外活動に参加しやすい環境を準備します。
- (3) 小グループによるプロジェクト学修
 - ア 学生が効果的な対人関係をもつことができるよう、授業課題として小グループによるプロジェクト学修を設定します。
- (4) 臨床実習
 - ア 学内授業では、附属診療センターを活用したり、地域の関連機関の協力を得たりして作業療法プロセスを部分的に経験する機会を提供します。
 - イ 学外実習では、病院や施設において、作業療法プロセス全体を経験する機会を提供します。
- (5) 障害特性理解の重視
 - ア 障害特性理解のために、視覚教材の利用や障害者との接触を多く持ちます。

2 専門教育科目の構成

本学科の教育理念・目的に基づき、専門教育科目は、人間と社会生活の理解に関する科目、保健・医療・福祉を発展させる科目、専門領域理解の基礎となる科目、専門領域特有の科目の4つの領域で構成されています。

専門領域特有の科目は、以下に示す科目群で構成されています。

- (1) 必修科目の科目群
作業療法学基礎、作業療法評価学、作業科学、身体障害作業療法学、精神障害作業療法学、認知障害作業療法学、発達障害作業療法学、老年期障害作業療法学、地域作業療法学、臨床実習、卒業研究
- (2) 選択科目の科目群
統合総合科目

3 専門教育科目の特色

- (1) 個々のクライアントの多種多様なニーズに対し、関連領域の専門職と連携してよりの確な支援ができるように、共通領域科目についてはできるだけ他学科との合同講義とし、他専門職との相互理解を促進します。
- (2) 人の「作業」を科学的に捉える目を養い作業を通してクライアントの能力を引き出すことができる人材を育成するために、身体と精神の両面の障害を総合的に理解できるような専門知識と技術を修得します。
- (3) 学内の附属診療センターを活用して、学生に見学、演習、実習の場を提供し、授業で学んだ知識と技術の統合を図ります。さらに、広島県内を中心に、臨床実習指導者や設備など受け入れ態勢が整った一般病院、リハビリテーション専門病院、精神科病院、発達障害児施設のみならず、通所リハビリテーションや在宅訪問、介護老人保健施設等、作業療法士が活躍する幅広い場所で作業療法の実践を能動的に体験します。

4 デイプロマ・ポリシーとの関係

作業療法学科のカリキュラムとデイプロマ・ポリシー（DP）との関係は下図に示すとおりです。

科目群	知識・技能				思考・判断・表現		主体性・協働性	
	人-作業-環境の関係及びそれらの健康と障害との関係に関する知識を身につけている	作業療法を実践する社会的背景を理解できる	作業療法プロセスを理解し実践する技術を習得できる	エビデンスをベースとし実践する技術を習得できる	柔軟で論理的に思考し、客観的に判断出来る	クライアントの現状に応じた豊かで適切な言語的、非言語的理解や表現が出来る	クライアントや関係者と効果的な対人関係を保つ態度を身につけている	理論と実践を照らし合わせて行動する態度を身につけている
作業療法学基礎	○	○	○		○			○
作業療法評価学	○		○		○	○	○	○
作業科学	○		○					
身体障害作業療法学	○		○	△ 学生間	○	○	○	○
精神障害作業療法学	○	○	○	○	○	○	○	○
認知障害作業療法学	○		○	△ 学生間	○	○	○	○
発達障害作業療法学	○		○	△ 学生間	○	○	○	○
老年期障害作業療法学	○		○	△ 学生間	○	○	○	○
地域作業療法学	○	○	○	○		○	○	
統合総合科目	科目により多様							
臨床実習	○	○	○		○	○	○	○
卒業研究	○		○			○	○	

5 学修成果の評価

能動的な学修を促す手法を積極的に導入し、適正な学修時間を確保した上でコースカタログ・シラバスに配点割合を示し、学期中や学期末に行うレポート等の提出課題・プレゼンテーション・筆記試験・実技試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度等を含め、総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1 基本理念

作業を通じてその人にふさわしい生活を再建する作業療法士を育成します。身体や精神、発達などの障害があるクライアントを対象に、身辺処理、仕事、遊びなどあらゆる作業を通じて、心身機能の回復を図ったり、クライアントが望む生活を支援したりするための知識と技術を身につけ、チームを組みながら保健、医療、福祉に貢献できる人材の育成を目指します。

2 人材育成目標

人の作業を科学的に捉える目を養い、多種多様な個別ニーズに対し、関連領域の専門職と連携してより的確なケアシステムを提供できる作業療法士を育成します。

3 求める学生像

- (1) 人の作業と健康に高い関心を持つ人
- (2) 多様な価値観を受け入れ、柔軟に他者と協働できる人
- (3) 好奇心を持って自主的に学べる人
- (4) 前向きに忍耐強く努力する人
- (5) 論理的に思考し科学的に探求する人

4 入学者選抜の基本方針

- (1) 【知識・技能】
 - ・高等学校までに修得すべき基本的な学力を備えている。
- (2) 【思考力・判断力・表現力】
 - ・柔軟で深い思考ができ、建設的、客観的に判断できる力がある。
 - ・言語的な理解のみならず、状況や表情など非言語的な理解力も豊かに持ち、状況に応じて適切に表現できる能力を備えている。
- (3) 【主体性・協働性】
 - ・作業療法や作業がうまくできない人々に関心があり、行動・態度に優れ、共感性、協働性が高く、卒業後も主体的に学び続け、行動することのできる意欲・積極性がある。

[一般選抜（前期・後期）]

大学入試センター試験において、本学科が指定した教科・科目を受験した者を対象として面接を行います。大学入試センター試験の得点と、本学が行う面接の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接の得点の高い者を合格とします。大学入試センター試験では、入学者選抜の基本方針の（１）を中心に、基礎学力を評価します。面接では、質問に対する回答により、（２）（３）を評価します。

[推薦入試]

本学が行う小論文と面接の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接の得点の高い者を合格とします。小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。面接では、質問に対する回答により、（２）（３）を評価します。

[社会人特別選抜]

社会人として特定の課題に取り組み、やり遂げた経験をもつ者を対象として本学が行う小論文と面接の得点の合計点で合否を判定します。合格最低点での同点者は面接の得点の高い者を合格とします。小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。面接では、質問に対する回答により、（２）（３）を評価します。